

AGU NEWS No. 24

青山学院大学

AGUニュース第24号
[2004年10月～11月号]
青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111 (代表)
URL: <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



大学1号館(青山キャンパス)

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

第2回青山学院「会計サミット開催」 2004年、「青学Sports」が熱い!

TOPICS

S&P社より「AA-／安定的」の格付けを取得
2年目を迎えたWTO研究センター
パッパ・コレギウムジャパン J.S.パッパ教会カンタータのタベ

報告・お知らせ

「国際マネジメント研究科」TOPICS
2004年度給付奨学金・学業奨励賞

誌上公開講座

テーマ別科目:社会理解関連科目
「感性ビジネス—ファッション業界のフロンティア—」

INFORMATION

オープンキャンパス開催報告
大学図書館情報システム&HPをリニューアル

第2回青山学院 「会計サミット開催」

昨年につき、好評のうちに開催される



2004年7月28日(水)、青山キャンパスガウチャー記念礼拝堂において、第2回青山学院「会計サミット」が開催されました。ここでは、「会計サミット」の企画・運営に携わり、当日は公開シンポジウムのコーディネータを務めた八田進二経営学部教授に、開催の意義と目的、そして会計サミットのテーマである会計専門職大学院設置に向けた本学の動きについてお話をうかがいました。



経営学部
八田 進二 教授

—まず、あらためて本学における「会計サミット」開催の意義を教えてくださいませんか？

八田 ご存じの通り、2003年6月にわが国の公認会計士法が37年ぶりに大改正されました。本学の「会計サミット」の開催目的は、昨今の会計環境の大変革を多くの方々に実感していただき、この変革期において大学が果たすべき大きな役割、すなわち会計プロフェッションを育成する会計専門職大学院設置の意義を広く知っていただくことにあります。おかげさまで昨年の第1回は各界から大きな反響を呼び、実際に参加された方々からも好評を得ることができました。そして第2回「会計サミット」は、2005年4月の会計専門職大学院開設を目前に控え、「会計専門職大学院の使命と役割を考える」というテーマで、より実際の討議を行うために開催されました。公開シンポジウムには会計分野の第一人者をはじめ、会計専門職大学院設置に動く各大学のリーダーといえる方々が集結し、将来を展望した非常に有意義な催しになったと自負しています。

—今後、会計専門職大学院が果たす社会的役割とは、どのようなものとお考えですか？

八田 1990年代にわが国の会計監査制度への信頼は大きく揺らぎました。さらにわが国が手本としたアメリカでも「エンロン」などの大規模な会計不正事件があり、そうした世界的な会計不信に対する危機感が、会計制度および公認会計士教育の抜本的見直し、ひいては会計専門職大学院設立につながっているわけです。従来、わが国では会計といえば、単に「帳簿記入」というテクニカルな分野として軽視されてきたきらいがあります。しかし、欧米では治安、医療、福祉、教育、法などと並ぶ

社会制度の根幹のひとつと考えられており、国をあげて優れた会計プロフェッションの育成に多大な力を注いできています。それに対して、会計実務家養成教育に対する認知度は、先進諸国の中でおそらくわが国が最低ランクでしょう……本学では、会計プロフェッションの育成とともに、こうした従来の会計観を大きく塗り替え、会計の地位向上のための啓蒙活動も積極的に展開していきたいと思っています。

—会計専門職大学院が育成する「会計プロフェッション」の人材像について教えてくださいませんか？

八田 一言で言えば、グローバルかつフェアな視点で広く公共の利益に貢献する人材ですね。そこで重視されるのが「国際性」と「倫理観」……これは、まさにキリスト教を基盤とした青山学院大学の教育理念と一致するものです。そういうこともあり、法人本部や大学執行部から「(会計専門職大学院設置は)青山学院の使命。ぜひ、設立したい」という力強い励ましとバックアップをいただき、スピーディーに設置準備を進めることができました。また、単に全国で「一番乗り」というだけではなく、実務経験を持つ教員を含め各分野の第一人者13名が新たに外部から加わる予定で、同時期にスタートする会計専門職大学院の中でも屈指の教育環境を用意します。会計プロフェッションとは、いわゆる公認会計士や税理士だけではなく、企業、または国や地方自治体などの非営利団体における会計責任者や外国の公認会計士、さらには会計実務教育の興隆に伴って、今後必要とされてくるであろう会計プロフェッション教育・研究に携わる人材……こうした人材育成までを視野に入れた多彩な科目を設置し、しかも各自の希望に合わせて科目選択の幅を広くしたカリキュラムを編成する予定です。ちなみに私自身の長年の研究テーマのひとつでもある「職業倫理」の分野では、日本で最高水準の教育を提供できると確信しています。

第2回青山学院「会計サミット」 「会計専門職大学院」の使命と役割を考える！ —2005年4月開設に向けた取り組み—

日時 2004年7月28日(水) 13:30開場
場所 第1部・第2部/ガウチャー記念礼拝堂
第3部/アイビーホール(青学会館)
総合同会 杉山 学 経営学部教授

- 開会の挨拶
武藤元昭 学長
- 第1部 特別講演
「期待される「会計専門職大学院」の育成」
木村剛(KF株式会社代表)
- 第2部 公開シンポジウム
「会計専門職大学院」の果たす役割と課題
パネリスト
高田敏文 東北大学大学院経済学研究科教授
加古宜士 企業会計審議会会長、早稲田大学商学部教授
鈴木豊 青山学院大学会計専門職大学院開設準備室長・同経営学部教授
藤沼重起 日本公認会計士協会会長、新日本監査法人代表社員
脇田良一 公認会計士・監査審査会委員、明治学院大学前学長
コーディネータ
八田進二 青山学院大学経営学部教授
(敬称略)
- 第3部 懇親パーティーおよび意見交換会



—第一部の特別講演では、政府の金融関係の委員会などで活躍されている木村剛氏が登場されましたね。

八田 実はこれまで経済・金融の専門家ですら会計の持つ本当の重要性を十分に認識していませんでした。その中で木村剛氏は金融マンでありながら、早くから会計制度の重要性を主張されており、「会計戦略」の発想法という著書はベストセラーにもなっています。金融の世界では数少ない会計シンパであり、異分野から会計の本質を語る貴重な方です。私の知人でもあり、今回の「会計サミット」の趣旨をご理解いただき講演につきましても快諾いただいた次第です。彼の明解な講演内容は、多くの聴衆を魅了し、啓発していたようで、まさに適任だったと思います。



木村 剛氏

—「会計サミット」は今後も開催されるのですか？

八田 ええ、年内12月までに第3回を開催したいと思っています。ここでは主に会計専門職大学院への入学希望者向けのプログラムを企画する予定です。来年度以降の開催は未定ですが、先ほど述べたとおり、わが国における会計の地位向上を目指し、さまざまな試みを展開していく予定です。そして、ゆくゆくは青山学院大学をこれから進展する会計プロフェッション教育のメッカ(中心地)にしたい……「会計サミット」と名付けたのも実はそういう私たちの熱い思いが込められているのです。

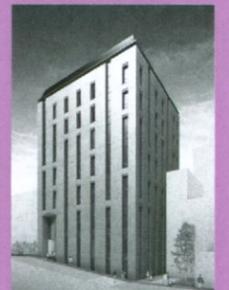
会計プロフェッション研究科(会計専門職大学院)、 設置認可申請中

青山学院大学では、2005年4月に「会計プロフェッション研究科」(会計専門職大学院)の開設を予定しており、2004年6月30日(水)、文部科学省に対して設置認可を申請しました。設置の趣旨は以下の通りです。

- ◇キリスト教理念に基づく教育の理念と方針を実現するために、高度な職業倫理性を有し、国際人としての資質を十分に備えた会計専門職、すなわち会計プロフェッションの育成を目指しています。
- ◇教育内容として、2006年実施予定の新しい「公認会計士試験制度」および「会計分野に関する専門職大学院と公認会計士試験制度との連携(短答式試験一部免除)」について配慮し、金融庁の方針に合致した教育内容を基準としています。
- ◇会計専門職として必要とされる知識は、簿記・財務会計・管理会計・監査そして関連する、企業法・租税法・IT・経済・経営・統計等です。これらの科目を幅広く体系的に配置し、社会的要請に応えられる質の高いカリキュラムを準備して開設します。
- ◇会計専門職大学院が育成する人材としては、公認会計士を第一目標としていますが、税理士・外国公認会計士・企業およびパブリックセクター等において、高度の会計知識を有する会計専門職としての役割を果たす、専門職業人を育成することも会計専門職大学院の基本使命としています。
- ◇青山学院大学には、大学各学部、大学院研究科と既に2つの独立した専門職大学院(国際マネジメント研究科(MBA)と法務研究科(法科大学院))があり、これに会計専門職大学院が加わることで、相乗効果の期待できる高度職業人教育を展開していきます。

会計専門職大学院棟「鉄入式」挙行される

2004年7月2日(金)、会計専門職大学院棟新築工事鉄入式が青山キャンパス(ウェスレー・ホール横)において執り行われました。2005年3月には、最新のIT環境と会計プロフェッション教育のための充設備が整った新校舎が誕生します。



建物名称
会計専門職大学院棟
構造
鉄骨造
階数
地上7階、地下1階



挨拶をする武藤元昭学長

学校法人青山学院、「スタンダード&プアーズ(S&P)」より「AA-/安定的」の格付けを取得

2004年8月9日(月)、学校法人青山学院は、米国の格付け会社「スタンダード&プアーズ」(以下「S&P」)より、長期発行体格付け「AA-」、およびアウトルック「安定的」という高水準の評価を受けました。

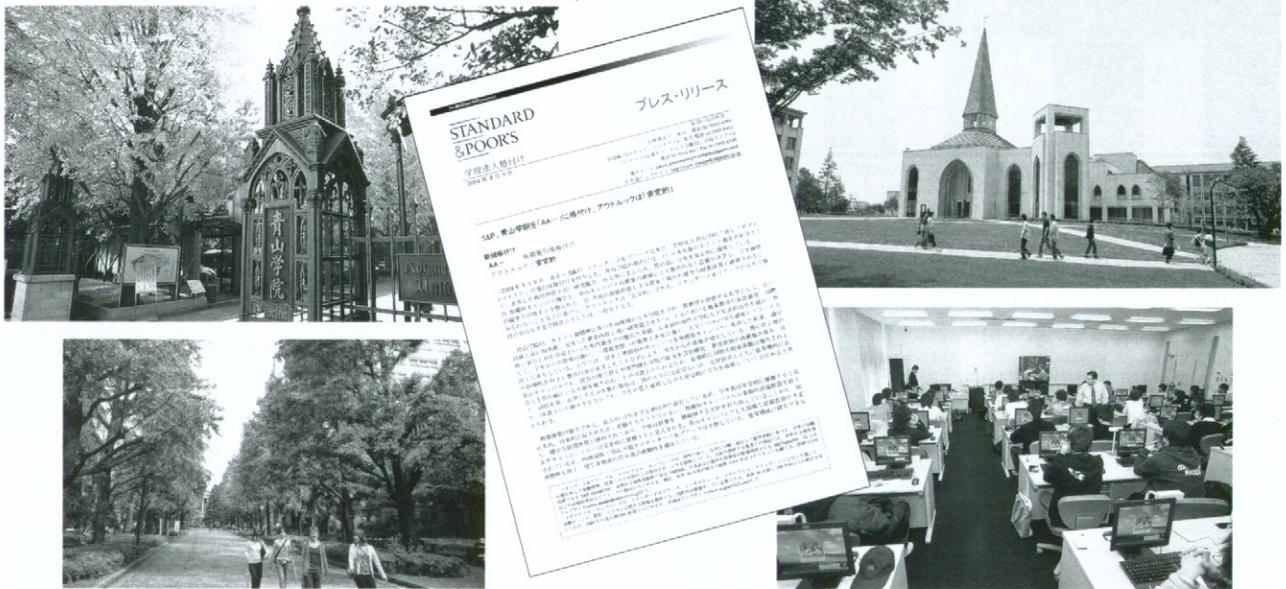
日本国内でS&Pによる格付けを取得したのは、青山学院が慶應義塾、東京理科大学に続いて3校目。本学院と同等の格付けを取得した大学は、タフツ大学、カーネギーメロン大学、カリフォルニア大学、プリティッシュ・コロンビア大学などがあります。また国内企業では、JR東日本、NTT、NTTドコモ、味の素、電通などがあげられます。

本学院がS&Pによる格付けを取得した目的は、世界各国の大学との連携を確固たるものにするためのグローバルな位置づけの確認、学生数を確保するためのロケーションの優位さとブランド力の認知、財政基盤の健全性の明示と将来にわたる資金調達の高多様性の確保にあります。

なお、S&Pが発表した、今回の本学院に対する格付けの根拠は、

おおむね下記の通りです。

1. 日本で有数の総合一貫教育に携わる私学として、キリスト教に基づく教育という建学の精神の下、充実した教育内容と高い研究能力を備え、質の高い学生を安定的に確保していること。
2. 相模原キャンパス開学で学生確保の競争力が向上したのに加え、青山キャンパスの再構築の進展により、教育内容と設備が充実し、社会人など幅広い層の需要も取り込むと期待されること。
3. 一貫校での教育に対する需要が強く、大学レベルでの安定的な学生確保とブランド力の維持に貢献していること。
4. 相模原キャンパス建設後も実質無借金の健全な財務体質を維持している。今後も青山キャンパス再構築に関わる大規模な設備投資が予定されているが、内部留保で対応可能と予想され、収支やキャッシュフローは安定的に推移すると見込まれること。



常務理事
金山仁志郎

本学院が国際的な格付け機関である米国格付け会社S&P社から取得した「AA-」は、21段階の上から4番目に位置する高い評価であり、格付け定義は「債務を履行する能力は非常に高く、最上位の格付け「AAA」との差は小さい」とされています。

今回の格付けでは、本学の「充実した教育内容と高い研究能力」、「教育内容と設備の充実」そして「健全な財務体質の維持」などが評価されていますが、学校法人を取り巻く厳しい競争環境に対応し

ていくためには、更なる教育研究の高い質の維持と経営の効率化を

図ることが求められています。そのためには、財務の安定性・健全性について第三者による評価を受け、学校法人が自らの信用力を確認し、学生、保護者、受験生、卒業生、更には広く社会に対して、それを積極的に開示する責務があると考えます。また、併せてその特色を適切にPRするとともに学生や保護者にディスクロージャーすることは、重要な意義を持つものであります。

この度の国際金融市場でのグローバルスタンダードとなっているS&P社からの格付け取得は、国際水準の中で世界各国の大学との連携強化を目指す青山学院にとって、今後の国際展開においても大変有用であり、更に今年創立130周年を迎える青山学院におけるこれからの充実、発展の指標の一つとなるものであることを確信しております。

2年目を迎えた青山学院大学附置WTO研究センター



WTO研究センター所長
岩田 伸人
(経営学部教授)

アジア太平洋地域における
WTO研究の拠点をめざして

1998年頃より、青山学院大学ではWTO関連の研究者・関係者が定期的に集まり、議論や情報交換をする場が存在していました。「WTO研究センター」は、そうした活動実績をベースに、2003年4月に学部を超えた学際的な大学附置組織として発足しました。

本センターの特色は、行政機関でも、民間のシンクタンクでもない、大学としての中立的な立場から、世界貿易機関(WTO)を取り巻く国際通商に関わる課題の把握と調査研究を推進していることにあります。具体的には、WTO関連の情報収集をベースに、青山学院大学を中心とした分野横断型のWTO研究の充実を図るとともに、グローバル社会に対応しうる人材育成、そして自由貿易社会の中で生きる世界中の人々にとっての「真の豊かさ」の追究を研究活動の目的としています。また海外の関係機関との交流も進め、将来的にはアジア太平洋地域におけるWTO研究の拠点としての役割を目指しています。

経済・通商問題の「今」を当事者に聞く機会を提供

本センターでは発足1年目から、研究者を対象とした研究会のほか、一般の方々も参加できる公開シンポジウムや講演会、また学生を対象とした「学生のためのEUTopp企業戦略セミナー」等を積極的に開催してきました。その目的は、今、グローバル社会で起こっているこ



との情報を広く共有し、それらについてディスカッション・意見交換の場を提供することです。

現在のインターネット社会においては、誰もが多くの情報に容易にアクセスできます。その反面、膨大な情報の中から、本当に価値ある情報を見出すことが難しくなっているのも事実です。どうすれば、正しい情報を得ることができるのか……その答えはごくシンプルです。「直接、当事者と議論する」こと。これこそ、もっとも有効な手段であることはいまでもありません。本センターで開催している研究会、シンポジウム、講演会、セミナー等には、国内外の経済・通商の分野の問題における、まさに当事者の方々に講師としてお招きしています。たとえば、各省庁のWTO交渉関係者、グローバルビジネスで活躍する経営者、消費者団体・環境NGO、本学や他大学の研究者など……まさに産官学が一体となったラインナップで、経済・通商に関わる諸問題の“今”を知り、語り合うことができます。また、スイス・ジュネーブにあるWTO事務局から航空便で、常にアップ・トゥ・デイトな文書情報が、本センターに蓄積されていることも大きな特色です。(これらは本センター資料室で閲覧可)

こうした本センターの活動は、幸い多くの方々から好評を持って迎えられました。2年目を迎えた今年度からは、情報収集と調査・研究面、そして本センターからの情報発信にもさらに力を入れていくつもりです。総合大学のメリットを生かし、また青山学院大学の教育理念にもある国際性を発揮し、グローバルかつ学際的な研究活動を推進していく所存です。詳しくは、「青山学院大学 WTO研究センター」ホームページ(<http://www.wto.aoyama.ac.jp>)をご覧ください。

Pick up !!

WTO研究センター主催・シンポジウム

●国際学術シンポジウム

「日本メキシコFTA交渉に学ぶアジア諸国FTAのあり方」
2004年5月29日(土)、WTO研究センターの主催、外務省の後援により開催。講師として、外務省経済局、経済産業省通商政策局、農林水産省大臣官房、財務省関税局、厚生労働省大臣官房、公正取引委員会事務局関係者の方々に出席いただき、行政の最前線から生の情報をもとに、自由な議論が交わされました。

●公開シンポジウム

「グローバル化と消費者の利益～国際貿易と環境・食品安全の視点から～」

2004年1月17日(土)に開催されました。パネリストはGary P.Sampson氏(国連大学高等研究所特任教授/WTO事務局)、松下 満雄氏(成蹊大学教授/元WTO上級委員)、飯田 敬輔氏(本学国際政治経済学部教授)、内山義英氏(本学国際政治経済学部助教授) 瀬尾 佳美氏(本学国際政治経済学部助教授)。食品や環境問題等、一般の方々の関心が高いテーマということもあり、在学生を含め100名を超す多くの方々が登場されました。

経営学部主催・WTO研究センター企画 学生対象セミナー

●学生のためのEUTopp企業戦略セミナー

EU(欧州連合)の外資系企業トップを講師としてお招きし、各社の対日戦略について語っていただくセミナー。本学全学部の学生を対象とし、外資系企業トップと直接対話・交流できるまたとないチャンスです。今年度は全5回を予定しており、これまでに開催されたもの、開催が予定されているものは右記の通りです。

第1回 5月18日(火)

エレクトロラックス・ジャパン(株)代表取締役社長 トード・シールステット氏

第2回 6月14日(月)

UPMキュンメネ・ジャパン(株)代表取締役社長 ティモ・ヴァルハマ氏

第3回 10月19日(火)

キャンニング・ジャパン(株)代表取締役社長 モリー・マーティン氏

第4回・第5回

未定(在日フランス雑誌社と交渉中)

平成16年度「技術経営(MOT)人材育成プログラム導入促進事業」に 本学総合研究所「AMLプロジェクト」による提案事業が採択

2004年6月、経済産業省による「技術経営人材育成プログラム導入促進事業」に、青山学院大学の「新規事業開拓のための情報化戦略プロジェクトにおけるITマネージャ育成プログラム(科目名: マネジメントIT戦略)」(プロジェクトリーダー・玉木欽也経営学部教授)が選定されました。

この事業は、より実践的かつ専門的な技術経営(MOT=Management of Technology)教育を進めていくために、経済産業省と株式会社三菱総合研究所の共同事業として、広く教育機関に公募を行っているものです。今年度の公募には、合計で154件(91機関)の応募があり、外部有識者による厳正な審査の結果、本学を含む計34件(27機関)が採択されました。



プロジェクトリーダー
玉木 欽也
(経営学部教授)

MOT(Management of Technology)とは、もともと1990年代にアメリカで始まった研究・技術開発において必要な専門的かつ実践的なマネジメント能力向上を目指す教育プログラムを指します。ただし今日において、MOTは製造業を中心に技術イノベーションを加速し、技術戦略を事業に結びつけることにより産業・国家の競争力を向上させようという活動全般を指す言葉としても多く

使われるようになっていきます。

日本でも、技術開発や特許がなかなか高収益をもたらすビジネスモデルにつながっていないという反省から、近年、MOTへの注目度が高まっています。技術イノベーションをどうマネジメントしていくかが、今後の日本経済の発展の鍵であり、その実現が激しい国際競争に打ち勝つ強い技術力を持った日本の復活につながるものと期待されています。そのためには、技術と経営とを効果的に融合した戦略を生み出し、それを実現できる人材育成が急務です。

経済産業省は、そうした問題意識から科学技術創造立国の復権と起業家の創出を目指し、「技術経営人材の育成を強化する観点から、2002年度より大学等の研究機関と産業界とが一体となった取組として、技術経営プロフェッショナルコースの充実等を実施」(知的財産戦略大綱)を打ち出し、今や先進大学や民間教育機関はこぞMOT専門教育に乗り出しています。

本学は、総合研究所「AMLプロジェクト・マネジメントIT研究部会」において、まだわが国でMOT教育について広く論じられる以前から、MOTの必要性と可能性を探究してきました。また、学部・大学院教育において「サイバー・ビジネス演習」「サイバー・マニュファクチャリング演習」「マネジメントIT入門演習」といった協調・体験型の教育を実践してきました。そうした蓄積をベースにしたのが「新規事業開発のための情報化戦略プロジェクト」を推進する「情報戦略プロデューサー」の新人材像の教育プログラムであり、この提案の新鮮さは、次の4点に集約されます。

青山学院大学総合研究所・特別研究プロジェクト「AML(Aoyama Media Lab.)Ⅱ」の一環として取り組まれているこの提案事業について、プロジェクトリーダーである玉木欽也経営学部教授からお話をうかがいました。

「AML(Aoyama Media Lab.)Ⅱ」とは?

通産省(現:経済産業省)と情報処理振興事業協会(IPA)の「教育情報化モデル学習システム構築事業」のひとつとして選定されたAMLプロジェクトを前身として、2000年に文部科学省および日本私立学校振興・共催事業団の支援のもとに総合研究所の特別研究プロジェクトとして発足。教育と企業活動のためのサイバーキャンパスの実現と普及、人材開発・育成を目標に、企業や他大学と連携した多彩なプロジェクトを推進。総合研究所にその研究成果を社会に広く還元する「AMLコンソシアム」が設置されている。わが国のMOT専門教育に新たな可能性を拓く試みです。

①MOTの新しい方向性の提示

銀行統合の際に、情報システムのトラブルが金融不信にまで発展したのは記憶に新しいことですが、現在、多くの企業で経営戦略と情報化戦略の齟齬が深刻な問題を生みだしています。そこでAMLでは主としてIT業界や企業の情報システム部門のためのMOTの可能性に着目。経営戦略に沿った情報化戦略を生み出すためのMOT専門教育の開発を目指します。

②MOTによる新しい人材像の提唱

上記のMOTの方向性に沿った形で、新規事業における情報化戦略プロジェクトにおいて、その立案から評価までを担当し、情報戦略最高責任者(CIO)に助言できるファシリテータ(促進・協働役)型マネージャーである「情報戦略プロデューサー」の育成を提案し、その実践教育に取り組みます。

③社会ニーズ実態調査に基づく新しい教育プログラムの開発

新しい人材である「情報戦略プロデューサー」に必要なITスキル、およびそのスキルを修得するため教育プログラムを、徹底した「仮説-ニーズ-検証-開発-実践-改良」のプロセスにより構築していきます。

④ITを駆使した新しい教育方法の展開

開発された教育プログラムは、青山学院大学大学院および連携大学大学院において、社会人を含む大学院生を対象に単位認定を行う正規授業「マネジメントIT戦略」として開講予定。主な対象である社会人の方々が受講しやすいよう、遠隔授業と対面演習を組み合わせ「ブレンディッドラーニング」という授業スタイルを実現するほか、eラーニングの積極的活用により、遠隔地や海外の受講者へも教育サービスの提供も構想しています。短期集中プログラムをはじめ、幅広い教育ニーズを提供するほか、将来的には学部生段階からのMOT教育に発展させていきたいと考えています。

私たちが提案した新たな人材像とそのMOT教育の試みが、今回、経済産業省の選定を受けたことは、わが国のMOTにおける新しい可能性を青山学院大学が拓くための大きなチャンスであると考えます。IT関連企業からも多くのご賛同をいただいております。大学人十企業人のコラボレーションをベースに未来のITマネジメントを創造するこのチャンスを、MOT専門教育の実践校へと、大きく育てていきたいと思っています。

青山スタンダード科目「キリスト教理解関連科目特別講座」 バッハ・コレギウムジャパン J.S.バッハ教会カンタータの夕べ

2004年6月30日(木) 18:30より、青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂において、鈴木雅明指揮バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)の演奏による「J.S.バッハ 教会カンタータの夕べ」が開催されました。これは全学共通教育システム青山スタンダード科目「キリスト教理解関連科目」の特別講座として行われたものです。

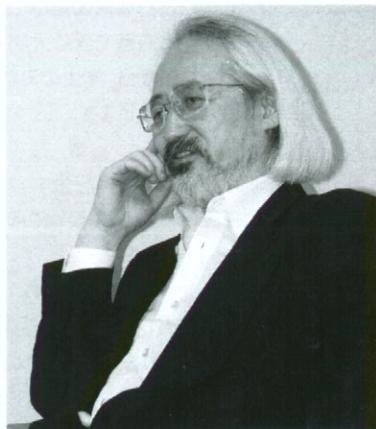
バッハはバロック音楽の巨匠。ドイツ・プロテスタント、ルター派教会の熱心な信者で、ルター派教会音楽の珠玉を残しました。その代表作が200曲を超える彼の教会カンタータ。礼拝で朗読される聖書のメッセージをより深く伝えるための音楽で、当日の聖書朗読箇所を読み説く歌詞が歌われ、またその個所にちなむ讃美歌の歌詞やメロディが巧みに取り込まれていました。

礼拝堂という空間で、聖書朗読に耳を傾け、讃美歌を歌い、バッハが使ったのと同じバロック時代の楽器による最高水準の演奏でカンタータを味わい、私たちも当時の会衆の感動を追体験してみよう——それがこの講座の趣旨でした。そこで大胆にも、世界的なチェンバロ・オルガン奏者であり、東京芸大でほかならぬバロック時代の楽器を扱う「古楽科」の教授、鈴木雅明氏率いるBCJに出演を打診。本学にとって大変喜ばしいことにご快諾をいただくことができ、この夢の演奏会が実現したのです。

開会祈祷が終わると鈴木氏が颯爽と登場、いきなり場内をつなぐ、あの有名な《トッカータとフーガ 二短調》の冒頭のトリル。その瞬間から聴衆は耳を奪われ、才気溢れる若きバッハが乗り移ったかのような、ほとぼり炸裂するオルガンの響きに会場中が「水を打ったような」興奮のつぼと化しました。



演奏が終わると、鈴木氏のお話。気迫に満ちた演奏とは違って変わって、気さくなお人柄がにじみやかな雰囲気なかで、この日のおもな演目であるカンタータについて解説されています。とくに後半のカンタータ第147番では、まずこの曲が演奏されたバッハ当時の礼拝の聖書朗読箇所が実際



鈴木雅明氏

に朗読され、その聖書のメッセージがどのように作品に反映されているか、そしてバッハがいかに巧みに歌詞を音型で表現しているかといったことが、独唱・独奏者の実演つきで解説されました。さらには、このカンタータで歌われる有名な讃美歌《主よ、人の望みの喜びよ》を、聴衆がBCJの伴奏で歌わせてもらうというサービスつき。

こうした解説・体験を踏まえて最後に通して聴くカンタータは、ヨーロッパ各国から来訪した独唱者の瑞々しくしなやかな歌唱ともども、多くの聴衆に深い感動を与えたに違いありません。「古楽器の柔らかい響きがよくかった」「解説つきだったのが単なる演奏会と違ってよかった」など、学生からも賛辞が多々寄せられています。青山学院大学の学生・教職員にとってまさに極上の一夜となりました。

(文学部史学科助教授 那須輝彦 記)

鈴木雅明氏プロフィール

BCJ音楽監督、チェンバロ・オルガン奏者。神戸出身。12歳から教会のオルガニストを勤める。東京芸術大学作曲科に進んでからは矢代秋雄に師事。卒業後同大学院オルガン科では広野嗣雄に師事、鍋島元子の主宰する古楽研究会でチェンバロを学んだ。1999年、モービル音楽賞(洋楽部門)、第23回井植文化賞(文化芸術部門)、2000年度音楽之友社賞、2001年第42回毎日芸術賞受賞。また、2001年ドイツ連邦共和国より「ドイツ連邦共和国功労勲章功勞十字小綬章」受章。現在、東京芸術大学教授。また各地のオルガン企画、バロックコンサート・シリーズの監修をつとめる。

バッハ・コレギウム・ジャパン プログラム

●挨拶

青山スタンダード・キリスト教理解関連科目領域担当者会コンピナー 嶋田順好

●聖書朗読・祈祷 詩編第130編

大学宗教部長 東方敬信

●演奏 バッハ・コレギウム・ジャパン

《オルガン独奏とお話》 J.S.バッハ:トッカータとフーガ 二短調BWV565

オルガン独奏 鈴木雅明

《会衆賛美》「讃美歌」258版

オルガン奏楽 今井奈緒子

J.S.バッハ:カンタータ第38番《深き苦悩の淵から、私はあなたを呼びます》BWV38

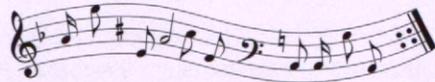
《お話》 鈴木雅明

《会衆賛美》「讃美歌 第二編」228

J.S.バッハ:カンタータ第147番

《心と口と行いと生活が》BWV147

指揮 鈴木雅明



青山祭実行委員長からのメッセージ



毎年、前夜祭のコンサートでは超豪華アーティストが登場し、一般の方々も多数来場される青山祭は、全国でも屈指のスケールと内容を誇る大学祭。2004年度実行委員長から、学生のみなさんへのメッセージをお届けします。

青山学院創立130周年という記念すべき年に行われる今年の「青山祭」は、10月29日(金)に前夜祭、10月30日(土)～11月1日(月)の3日間に本祭が開催されます。

2004年度のテーマは「PRESENT～今という贈りもの～」。「PRESENT」には、「今」「贈りもの」「参加」などの意味があります。すべての青学生が今という瞬間に青山祭という場を与えられ、感謝すると同時にその「今」という時間を存分に楽しん



でほしい……今回のテーマには80名の実行委員のそんな願いが込められています。

また、実行委員会では、2000年度より青山祭期間中のゴミ減量化やエコ容器(非木材紙トレイ)の使用など、環境問題への取り組みも行っています。これは「今」を「未来」につなげる試みと言えるでしょう。昨年度の青山祭では、ゴミの分別回収率が90パーセントを超え、青学生のリサイクルに対する意識の高まりを感じました。でも、私たちはそれで満足しているわけではありません。少しでも100パーセントに近づけるため、引き続き学生のみなさんのご協力をお願いします。

なお、ミュージックフェスティバル出演者など青山祭最新情報は青山祭ホームページ(<http://www.aoyamasai.com/>)に掲載していますので、ぜひご覧ください。

2004年度青山祭実行委員長
山内聖士(法学部法学科3年)

クリスマス・ツリー点火祭 青山・相模原で開催

キリストの降誕を祝うクリスマスまでの4週間を、アドヴェント(待降節)と呼んでいます。その喜びの季節に入ることを心に刻むために、幼稚園から大学院まで青山学院全体がひとつになって行われるこの礼拝が、クリスマス・ツリー点火祭。今年度は11月26日(金)夕刻より、青山・相模原両キャンパスで開催されます。ここでは当日、相模原キャンパスで素晴らしい演奏を聴かせてくれる大学聖歌隊とハンドベル・クワイアの学生からのメッセージをお届けします。



クリスマス・ツリー点火祭(相模原)

大学聖歌隊 隊長



法学部法学科3年
平井 君

私たち大学聖歌隊の歌声は、点火祭のほか、学院での各種礼拝行事、10月の定期演奏会、クリスマスコンサートなどで聴くことができます。また、夏休みには「演奏旅行」として各地の福祉施設などでも歌っており、今年は九州に行きました。私は大学入学まで歌の経験は皆無で、ほんとうはサッカーをやるつもりでした。しかし、高校時代の友人を通して聖歌隊の存在を知り、素晴らしい先輩たちと接していくうちに、入隊を決意。今では歌うことに心の底から喜びを感じています。昨年、相模原キャンパスで初めて行われた点火祭では、聖歌隊副隊長として参加。今年は隊長として総勢30数名の隊員を率い、聴いている方々の心に歌声がより届くよう、ラテン語の歌詞の意味や曲の背景をしっかりと理解しながら、歌うことを心がけていきたいと思っています。そして、昨年は実現できなかったハンドベル・クワイアとのコラボレーションも今年の大きなハイライトになるはず……青学生のみなさん、当日は、こぞって聞きに来てください。そして、アドヴェントにふさわしい喜びに満ちた夕べをともに過ごしましょう。

私とハンドベルとの出会いは大学入学直後のこと。「キリスト教概論」のオリエンテーションでハンドベル・クワイアのデモ演奏を聞き、「天使の歌声」とも称される美しい響きにすっかり魅せられてしまいました。もともと教会のタワーベルに由来するこの楽器の特色は、ひとりでは演奏ができないということ。そして全員の心がひとつになり、曲が完成したときの一体感は、あたかも「曲の中に自分がいる」ような感覚で、その時に感じる開放感と喜びは言葉では言い尽くせません。難しそうだと思われるかもしれませんが、1年も練習すれば演奏することができるようになります。しかし、一方でこの楽器には一生かかっても究めることができない奥深さもあります。今年の点火祭では、ともに青山学院宗教センターに所属し、ふだんから部員同士も親密な大学聖歌隊とのコラボレーションも予定されており、私たちの練習にも一層力が入っています。楽しい演奏をお聴かせすることができますので、皆さんぜひご来場ください。

ハンドベル・クワイア 隊長



文学部史学科3年
松木貴司 君

2004年、「青学Sports」が熱い!

連日のメダルラッシュに日本中が沸いた今夏のアテネオリンピック……本学体育会の選手たちも、今シーズン、闘志あふれるプレーで素晴らしい成績を残しています。青学生のみなさん! これからも本学体育会への熱い応援をよろしくお願いいたします!

【バスケットボール部(男子)】

2選手がU-24男子日本代表に選出される

5月に行われた第53回関東大学選手権で、関東二部リーグ所属ながら、なみいる一部リーグの強豪校を次々と撃破し、準優勝に輝いた本学バスケットボール部。2004年7月24日(土)～8月1



日(日)、台湾で行われた第26回ウィリアム・ジョーンズカップ国際バスケットボール大会に、大屋秀作君(国際政治学科3年)、佐藤託矢君(史学科2年)の2名が選出されました。また、8月18日(水)・19日(木)・21日(土)には、本学にて韓国の延世大学と国際親善試合が開催されました。

【空手道部】

第47回全国空手道選手権大会で団体戦女子「形の部」優勝!

2004年7月10日(土)・11日(日)、東京体育館で開催された第47回全国空手道選手権大会において、本学空手道女子が昨年度、一昨年度ともに準優勝に終わった団体戦女子「形の部」で、念願の優勝を果たしました。在学中に個人戦4連覇の偉業を成し遂げた諸岡奈緒さん(2003年経済学科卒)が卒業し、今年は渡辺さやか



さん(教育学科3年)、岡島洋恵さん(経営学科3年)、備後里砂さん(法学科2年)の3選手が出場。所属キャンパスの違いを乗り越え、できる限り一緒に練習するよ

うに努め、「今年はぜったいに優勝する!」という意気込みで大会に臨んだということです。その努力が、最高の形で報われました。

【サッカー部】

関東大学サッカー選手権大会、準優勝!

2004年6月20日(日)、本学サッカー部は第18回関東大学サッカー選手権大会において筑波大学などの強豪校を次々に破り、西が丘サッカー場で行われた決勝戦に進出。惜しくも3-0で明治大学に敗れましたが、10年ぶりとなる準優勝の栄誉を手に入れました。



【バレーボール部(女子)】

東日本インカレ20年振り2度目の優勝!

木村智香子さん、MVP&猛打賞に輝く

2004年7月4日(日)、本学女子バレーボール部は、第23回東日本大学バレーボール選手権大会(東日本インカレ)決勝において、東北福祉大学に圧勝。春の関東大学女子リーグ戦に続く優勝の栄冠に輝きました。関東リーグでの優勝は14年ぶり、東日本インカレでの優勝は20年ぶりとなります。

なお、東日本インカレでは、個人賞として主将を務めた木村智香子さん(国際政治学科4年)が最優秀選手(MVP)と猛打賞をダブル受賞したほか、サーブ賞に三川万里子さん(教育学科2年)、セッター賞に秋山美幸さん(史学科2年)、リベロ賞に川上佳奈さん(英米文学科1年)がそれぞれ選ばれています。



【硬式野球部】

山岸 稯投手、加藤領健捕手が国際大会で大活躍



2004年7月2日(金)～7月8日(木)に開催された「第33回日米大学野球選手権大会」に、本学硬式野球部から加藤領健君(経済学科2年)が捕手として選出されました。神宮球場などで5試合が行われ、日本チームが全勝しています。

また、7月23日(金)から台湾・台南市および高雄市で開催された「第2回

世界大学野球選手権」の日本代表22選手に、本学硬式野球部から山岸 稯君(史学科4年)と、日米大学野球に引き続き加藤君の2人が選抜されました。同選手権は台湾、カナダ、米国、メキシコ、キューバ、ブラジル、チェコ、韓国、インドネシア、日本の10チームが出場。山岸君は投手として3試合に登板、加藤君は捕手として全試合に出場し、日本チームの銀メダル(金メダルはアメリカ)獲得に大きな貢献を果たしました。



写真提供: 青山学院大学新聞編集委員会 / 体育会広報愛好会 青山スポーツ

「国際マネジメント研究科」TOPICS

目まぐるしく変化を遂げる時代の要請に、的確かつ迅速に応えていくために……。

本学国際マネジメント研究科は、新しい時代のビジネス・スクールを創造するため、グローバルな視点から教育・研究の革新をめざす、数々の試みを展開しています。

「オープン・リサーチ・センター整備事業」に選定

2004年5月、本学国際マネジメント研究科の研究プロジェクトが、文部科学省「平成16年度オープン・リサーチ・センター整備事業」に選定されました。対象となるプロジェクトは「アジアにおけるインターネットビジネス教育システムモデルの国際開発研究」。産学連携と国際共同研究によりアジアにおけるインターネットビジネスに関する教育モデルシステムの解明を行うとともに、それをベースにした効果的なカリキュラムの開発をめざします。

研究活動にあたっては、実務に通じた産業界からの研究者や国際的な市場に通じた国外の研究者の受け入れを図り、そうした学外スタッフと

の連携によってグローバルな共同作業を展開。その成果を国際マネジメント研究科のカリキュラムに生かし、高度専門職業人の養成およびグローバルな経済社会への貢献を果たしていきます。さらに研究プロジェクトホームページの開設、広く一般にも公開する国際シンポジウム開催などを通して、研究成果・情報を社会に還元していくことも特色です。

なお、オープン・リサーチ・センター整備事業とは、文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業のひとつで、私立大学の大学院研究科・研究所などの中から、オープンな体制の下に研究を推進する優れた研究組織に対して、文部科学省が重点的・総合的に支援を行う制度です。

本学専門職大学院が、文部科学省「平成16年度 法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に採択

2004年9月、文部科学省の推進する「平成16年度法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」に、本学国際マネジメント研究科の教育プロジェクト「アジアMBA育成マネジメントゲーム」が採択されました。また新潟大学、九州大学および本学法務研究科との共同教育プロジェクト「裁判と法実務の国際体験研修プログラム」も採択となりました。この

プログラムは、文部科学省が国際的に通用する高度専門職業人の養成を推進するため、法科大学院をはじめ各種の専門職大学院で行われる優れた教育プロジェクトを選定し、重点的な財政支援を行うものです。教育内容、方法の開発とその充実等において、専門職大学院の更なる活性化促進を目的としています（平成16年度から実施）。

「外部評価評議委員会」開催報告

2004年6月26日（土）青学会館において、2004年度国際マネジメント研究科評議委員会が開催され、本学からは、羽坂理事長、魚住副学長、伊藤研究科長等が出席しました。

外部評価委員としては、会長の岡村正氏（（株）東芝 取締役代表執行役社長）をはじめ、青木利晴氏（（株）NTTデータ 取締役相談役）、堀義一氏（日産自動車（株） 相談役名誉会長）、古川享氏（マイクロソフト コーポレーション バイスプレジデント）、村上輝康氏（（株）野村総合研究所 理事長）、八城政基氏（（株）新生銀行 取締役代表執行役会長兼社長）等の日本のトップマネジメントの委員、ならびに、アメリカ・中国・韓国・シンガポール・ロシア等のビジネススクールのディーン等が出席しました。



委員会では、羽坂理事長の挨拶の後、伊藤研究科長による2003年度の研究科の現状分析についての報告が行われ、それに対する外部評価委員との熱心な質疑応答が行われた後、別室にて委員による国際マネジメント研究科学生15名へのインタビューが行われ、最後に会長より講評が述べられました。

「2004 Tokyo Seminar」開催

2004年7月20日（火）～23日（金）、青山キャンパスにおいて、本学とモスクワ大学（ロシア）、復旦大学、東北大学（いずれも中国）という3カ国4大学のビジネス・スクールの学生が集まり、国際マネジメント研究科主催による「2004 Tokyo Seminar」が開催されました。このセミナーは、



毎年、各国のビジネス・スクールの学生を本学に招待し、Business Simulation Game、工場見学、合同授業そして各国代表によるプレゼンテーション・コンテストなどを通して、異文化間の相互理解を深め、高い倫理

観の涵養と国際的視野の拡大の機会を提供しています。

今年度の主なプログラムは、国際マネジメント研究科岩井千秋教授による「マネジメント・ゲーム」、同研究科井手正介教授による講演「日本の経済・金融市場」、株式会社キャノン顧問宮城孝太郎氏による「キャノンのグローバル化」など。さらにグローバル化と企業経営をテーマに各大学代表学生がプレゼンテーションを行いました。



理工学部が 北里大学医学部と 学術交流協定を締結



青山学院大学理工学部と北里大学医学部は、相互の教育研究活動を促進するために、両学部間の学術交流に関する協定を締結。その調印式が9月16日(木)、相模原キャンパスにて、北里大学の吉村博邦医学部長と本学の稲積宏誠理工学部長の出席のもと行われました。

いずれも相模原市にキャンパスを有している両学部は、すでに

遺伝子関連などふたつの共同プロジェクトをはじめますが、今後は、それぞれの専門分野の特色を生かして密接な連携を図り、お互いの信頼、互惠、双務の原則に基づき、学部を超えて医学・理工学分野の教育研究面での学術交流を行っていきます。今回の協定に基づく活動内容は下記の通りです。

- (1) 教育研究のための教職員、学生の交流。
- (2) 共同研究プロジェクトの企画・実施。
- (3) 相互理解を深めるための講演会、シンポジウムの企画・実施。
- (4) 出版刊行物、研究論文、その他学術情報の交換。
- (5) この協定書の目的を推進するその他の活動で、双方が協議して同意した事項。

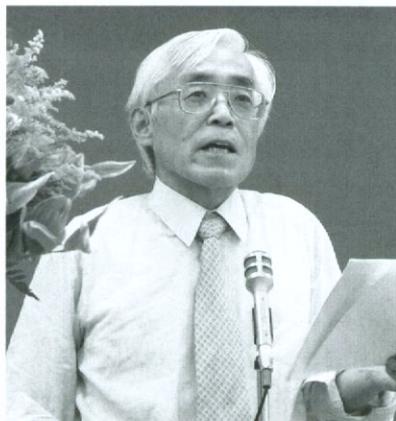


協定締結で握手する稲積理工学部長(左)と吉村北里大学医学部長(右)

社会に開かれた大学として 税務職員を対象とした 専門講座を開講

東京国税局からの委託を受けて、昨年に引き続き本学において税務職員を対象にした「税務専門講座」を開講しています。本講座は、「新企業会計制度」「倒産法制の実務」「最近の商法改正と関連する諸問題」の3コースを設けており、本学教員を中心とした講師陣により、8月下旬から12月中旬までの間に各コース10回ずつ実施しています。

政府税制調査会会長／一橋大学学長 石弘光氏講演会



石弘光氏

経済学部経済学会では、毎年、前期と後期のそれぞれに、学生を対象とした講演会を開催しております。2004年度の前期は、7月2日(金)青山キャンパスにおいて、政府税制調査会会長の石弘光先生をお招きしてご講演いただきました。

石弘光先生は、日本の税制に関する首相の諮問機関である政府税制調査会の会長であると同時に、一橋大学の学長(講演会当時)も務めておられます。また、その他に、様々な委員会の委員としても活躍しておられます。このように幅広い活動は、先生の研究活動に大きく依存しており、そのテーマは日本の財政や租税を理論的かつ制度的および実証的に分析するものであります。このようにご多忙な先生により、今回のようなご講演をいただいたことは、我々にとって非常に貴重なものであったと思われま

す。講演の内容は「少子高齢化における税・社会保障負担のありかた」でした。そして、学生や教職員など、合わせて300名近くの方が参加してくださいました。現在、日本では、他の先進国と同様、少子高齢化の時代に突入り、消費税や年金などの税や社会保障負担は大きな社会問題となっております。そのためか、今回の講演のテーマは、多くの参加者が強い関心を持っていたように思われます。参加者の中には、社会人の学生で、会社をお休みしてまで参加してくれた方もおられました。また、本学の教員のみならず他大学の教員や本学の職員の方まで参加してくださいました。さらに、講演後の質疑応答でも、最初は戸惑いがちの雰囲気もありましたが、後半では活発な議論が行われました。ただ、議論が盛り上がりすぎてきたところで終了時間がきてしまったのは少々残念でありました。

このような講演会は今後も定期的に行ってまいりますので、学生のみならず職員や教員の方々も気軽にご参加いただければと願っております。

(経済学部助教授 吉岡祐次 記)

2005年4月 「法学研究科ビジネス法務専攻」 開設予定

法学研究科に新たに開設する「ビジネス法務専攻」は、主に職業人に即応する大学院(夜間開講)であり、ビジネス・リーガルの観点から教育における新しい「ビジネスモデル」の構築を目指します。現在、ビジネス現場では、人事労務法務・知財法務・税法務といったビジネスロー知識が、経営戦略上ますます重要になってきています。しかし、ビジネスとリーガル双方のリテラシーを兼ね備えた専門的職業人の育成機関はまだないのが現状です。本ビジネス法務専攻は、その先鞭として、経営戦略法務における知識の修得、事例分析能力の研鑽等を行える、初の専門教育機関を目指しています。

2004年度 給付奨学金・学業奨励賞

青山学院大学給付奨学金は、各学部・に所属する2年生以上の学生で、前年度において卓越した学業成績をあげ、かつ人物において優れている者を対象に、有為な人材の育成に資することを目的に学資金が給付されます。また学業奨励賞も同様の資質を持つ学生を対象に、学業奨励に資することを目的に贈られます。また、青山学院大学大学院給付奨学金は、本学大学院に在籍する学生のうち、学業成績、人物とも極めて優秀と認められる者に対して学資金の給付を行うことにより、将来、社会および文化の発展向上に寄与する人材の育成に資することを目的としています。

2004年度は、青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂(6月16日(水))において各キャンパス合同で授与式が行われました。



〈給付奨学金・学部〉

教育学科/花輪鮎美 英米文学科/足立章子、成尾英利子 フランス文学科/中村祥子 日本文学科/小澤智美 史学科/巖谷恵理 心理学科/吉田尚美 経済学科/牧野謙吾、山賀絵梨、大西万世、大廣美佳 法学科/高橋裕美、大高美香子、井上紗希 経営学科/野村朋子、漆原恵理子、須田祐樹 国際経済学科/土橋純、西岡明子、浅原千雅子、市川帆奈美 物理学科/嘉屋絵美 化学科/松崎真由子 電気電子工学科/吉川直樹 第二部教育学科/西田菜穂、平岡晃江 第二部英米文学科/田之上亜矢 第二部経済学科/遠藤久美子、吉成完司、吉田悟 第二部経営学科/佐々木麻希子、高橋和子、椎塚丈夫

〈給付奨学金・大学院〉

教育学専攻/安田順 フランス文学・語学専攻/朝倉瞳 経済学専攻/伊藤真利子、山本雄三 私法専攻/岩佐浩一、増田友紀乃 経営学専攻/坂本学之、千葉雄 国際経済学専攻/田中理 国際コミュニケーション専攻/早川望 物理学専攻/市川広彦 電気電子工学専攻/近藤明日香 国際マネジメント専攻/小野まさみ、竹林真吾

〈給付奨学金・外国人留学生〉

経済学科/任海淳、劉小琴 経営学科/崔紅灵、金春峰、張妹博、全相賢 国際政治学科/袁巾蔚 国際経済学科/郭蕊

〈学業奨励賞〉

教育学科/上田智美、佐々木加奈、関口真美、小谷真紀子、山口友里子、柴真由美 英米文学科/鈴木みどり、内藤志保、中野真紀子、稲葉直美、宮川愛、清水るみ子、塩澤舞依子、三井さとみ、天野美帆、弓倉早貴、小幡美江 フランス文学科/河本麻衣子、柳澤真梨子、國田萌子、笠裕美 日本文学科/李満紅、田中美穂、増淵彩実、山田美音 史学科/加藤景子、小野聡子、上町早紀、山本千尋 心理学科/土屋沙恵、春山菜緒、川崎照予、新井杏奈 経済学科/木内康之、松田希沙、杉山暢、金杉貴仁、羽田夏希、渡部みよこ、折下千尋、泉里佳、田中貴、渡邊雄也、増田行俊、棚橋知里、松田真和、仁田泰恵、Pinnell Jones、内池祐梨 法学科/藤田慶子、藤田早霧、稲垣朝子、玉井夏希、三浦美波、布川裕、長本麻依、橘しほり、石田和代、玉城亮治、稲葉理華、河部みどり、河内菜穂、山崎紫乃、植村大祐、井田将敏、沼知暁子 経営学科/原有希絵、石井賢治、神谷夏未、李媛洁、能宗明子、伊藤由紀、田中順子、長瀬くみ子、増田真也、崔紅灵、澤田真里、鄭妍、佐田香連、櫛渕茉莉、金子麻有里 国際政治学科/梁玉実、山田学、松下麻衣、大坂千夏、鈴木則昭、川里洋輔 物理学科/内田透、林田剛志、村上航介 化学科/大塚徹郎、大塚勇人、三浦知弘 電気電子工学科/谷口晶俊、永井友理、室木隆仁 機械創造工学科/中下恵介、北野翔太、齋藤敦 経営システム工学科/本瀬陽介、小室達哉、齊田修平 情報テクノロジー学科/亀田誉博、勝野剛成、三浦駿介 第二部教育学科/漂川ゆかり、高橋絵美、伊藤はるか 第二部英米文学科/鎮守睦子、稲川恵美、大谷ひろみ、原雄介 第二部経済学科/村田沙織、大塚優子、吉本枝里、札治子、池田史明、新井一暁、住吉由子、川崎茂貴、藤堂大五郎 第二部経営学科/飯田愛美、西條玲子、牧朋美、村上てるみ、中山康太郎、後藤和郎、丸野聡子、田中純子、中川理恵



小倉和夫氏に青山学院大学特別招聘教授の称号を贈呈

学校法人青山学院理事会は、小倉和夫氏に青山学院大学特別招聘教授の称号を贈ることを決定。2004年7月23日(金)、特別招聘教授称号記の贈呈式が行われました。

この青山学院大学特別招聘教授制度は、顕著な研究業績または特別の学識経験を有する者で、本学の教育研究に格別に資すると認められる者に対してその称号を授与することにより、本学の一層の充実と発展に寄与することを目的とするものです。

各国大使等を歴任され、現在、国際交流基金理事長の任にあたり、わが国の国際親善に多大な貢献をなされている同氏の、本学における教育研究への寄与が大いに期待されます。

●小倉和夫氏の略歴



1938年生まれ
(最終学歴) ケンブリッジ大学経済学部卒業
(履 歴) 在ベトナム大使、在韓国大使、
在フランス大使、
外務省文化交流部長、外務省経済局長、外務次官補兼G7/G8サミット担当シエルバ、
総理府平和協力法準備室長、
青山学院大学国際政治経済学部国際政治学科教授、
東京大学客員教授
(現 職) 国際交流基金理事長

青山学院大学後援会報告

7月16日(金)、青山学院大学後援会評議員会(総会)がアイビーホール青学会館にて開催されました。同後援会は、大学と家庭との連絡を密にし、教育研究に必要な事業を援助する目的をもって設立された支援団体であり、在学生のご父母等の保証人によって構成されております。

主な事業は、下記の大学後援会予算案および決算報告書に示されているとおり、学友会活動補助等の学生活動に対する援助、首都圏ならびに地区別に開催される父母懇談会の開催諸経費から、職員の研修・教職員の福利厚生に対する支援等その内容は多岐にわたります。

評議員会は毎年1回7月に開催され、前年度の事業報告および決算

報告、当年度の事業計画および予算案が審議され、あわせて役員を選出が行われます。今回は、新会長に古木幸一氏((学)古木学園相模林間幼稚園園長)、新副会長に田村雅行氏((株)キリンビジネスシステム常務取締役統括部長)をはじめ、新任・継続あわせて92名の役員が選出されました。

評議員会終了後、引き続き懇談会が開かれ、出席された役員の方々、本学院長ならびに学長ほか大学教職員との交歓のひとつが持たれました。

2003(平成15)年度 大学後援会決算報告書

収入の部

(単位 円)

科目	予算	決算	差異
前期繰越金	33,486,472	33,486,472	0
会費収入	105,810,000	108,036,000	△ 2,226,000
利息収入	1,000	948	52
合計	139,297,472	141,523,420	△ 2,225,948

支出の部

(単位 円)

科目	予算	決算	差異
学生活動関係			
学友会活動補助	24,500,000	23,690,597	809,403
学友会活動指導補助	14,000,000	13,650,000	350,000
保険料	13,000,000	12,216,100	783,900
奨学金事業補助	10,000,000	10,000,000	0
大学行事補助	5,550,000	1,545,002	4,004,998
アドバイザー・グループ会費補助	1,000,000	955,000	45,000
ゼミナール活動等補助	1,500,000	563,125	936,875
構内環境整備補助	15,000,000	15,000,000	0
奨励金	1,500,000	0	1,500,000
後援会行事関係			
父母懇談会費	23,000,000	16,917,547	6,082,453
印刷費	150,000	106,050	43,950
旅費交通費	100,000	66,666	33,334
会議費	1,800,000	1,464,645	335,355
消耗品費	100,000	0	100,000
通信費	100,000	42,390	57,610
教職員関係他			
職員研修費補助	11,000,000	9,324,779	1,675,221
教職員福利厚生費補助	3,500,000	1,491,760	2,008,240
慶弔費	1,200,000	860,000	340,000
雑費	200,000	0	200,000
予備費	12,097,472	0	12,097,472
支出計	139,297,472	107,893,661	31,403,811
前期繰越金	0	33,629,759	△ 33,629,759
合計	139,297,472	141,523,420	△ 2,225,948

2004(平成16)年度 大学後援会予算

収入の部

(単位 円)

科目	金額	摘要
前期繰越金	33,629,759	
会費収入	107,190,000	会費収入内訳 第1部 @6,000円×16,470名=98,820,000円 第2部 @3,000円× 2,790名= 8,370,000円
利息収入	1,000	
合計	140,820,759	

支出の部

(単位 円)

科目	金額	摘要
学生活動関係		
学友会活動補助	30,000,000	学友会クラブ活動補助他
学友会活動指導補助	14,000,000	学友会指導者・監督への謝礼(交通費一部負担額)他
保険料	13,000,000	学生教育研究災害傷害保険
奨学金事業補助	10,000,000	奨学金資金への補助
大学行事補助	5,250,000	大学行事補助
アドバイザー・グループ会費補助	1,100,000	アドバイザー・グループ会費補助
ゼミナール活動等補助	1,500,000	ゼミナール活動補助他
構内環境整備補助	10,000,000	構内環境整備補助
奨励金	1,500,000	褒奨金
後援会行事関係		
父母懇談会費	24,000,000	首都圏及び地区別父母懇談会開催諸費用
印刷費	150,000	役員名簿・決算報告書印刷費
旅費交通費	100,000	事務連絡交通費
会議費	1,800,000	評議員会・懇親会費用
消耗品費	100,000	事務用消耗品
通信費	100,000	役員会・評議員会通信費
教職員関係他		
職員研修費補助	11,000,000	職員研修費補助
教職員福利厚生費補助	2,300,000	教職員同好会補助他
慶弔費	1,200,000	教職員等の慶弔費用、学友会関係祝金
雑費	200,000	各校友会支部との懇親会補助他
予備費	13,520,759	
合計	140,820,759	

「Aoyama Gakuin Scholarships」青山学院冠奨学金制度設立 経済学部同窓会より第1号の寄付

青山学院創立130周年を迎える本年より、本学の奨学金制度全体の充実を図ることを目的に、「Aoyama Gakuin Scholarships」という名称の給付型の冠奨学金制度が新たに設けられました。

その第1号の寄付が、青山学院大学経済学部同窓会より寄せられ、2004年7月20日(火)、森啓経済学部同窓会会長、磯部守孝事務局長、富田直同幹事長、沼尻剛同副幹事長が本学を訪問、森会長より羽坂理事長に奨学金目録が手渡されました。第1号の冠奨学金は「青山学院大学経済学部同窓会奨学金」と名付けられ、経済学部の在学生2名を対象に毎年15万円の奨学金が給付される予定です。

この冠奨学金制度は、女子短期大学・大学・大学院の在学生を対象に給付する奨学金制度で、原則として15万円以上の寄付金ごとにひとつの奨学金として設定し、寄付者の名前や法人等の名称を冠し、給付対象者の条件も設定することができます。学生にとっては自分の生活を支えてくださる方の顔がわかり、親しみを持って勉学や課外活動に励むことができます。今年の「青山学院大学経済学部同窓会奨学金」は、この秋募集することになっています。

●問い合わせ先:総合企画部募金室(TEL.03-3409-6208)

2004年度 就職関係行事

行事	対象者	日程	備考
職種別セミナー	学部3年生	10月18日(月)~27日(水)	営業職、MR職、SE職についてのセミナー
ファッションビジネスセミナー	学部3年生	10月23日(土)	アパレル業界への就職についてのセミナー
Uターン就職セミナー	学部3年生	10月21日(木)	Uターン就職についてのセミナー
女子学生セミナー	学部3年生	11月6日(土)	各業界で活躍するOGを招いてのパネルディスカッション
4年生体験報告会	学部3年生	11月30日(火) 12月2日(木)・3日(金)	就職活動を終えた4年生との懇談・質疑応答
第二部学生向け就職体験懇談会	第二部1~3年生	11月5日(金)	就職活動を終えた4年生との懇談会
第二部学生向け職業・興味適性テスト	第二部1・2年生	10月27日(水)	卒業後の進路を考えるための意識づけとして実施
自己分析・エントリーシート対策講座	学部3年生	10月27日(水)・12月4日(土)	エントリーシートの書き方を講義し、実際に書いたシートを添削(有料)
職業適性検査解説ガイダンス	学部3年生	10月20日(水)~	職業適性検査を受けた学生に結果の見方をガイダンスします。
模擬試験	学部3年生	11月10日(水)・12月11日(土) 11月24日(水)・12月18日(土)	一般常識テスト(有料) SPI講座・SPIテスト(有料)
業界研究セミナー	学部3年生	11月~12月	各業界の採用担当者、OB・OGを招き、学内で実施する説明会
公務員ガイダンス	学部1・2年生	12月8日(水)	公務員の仕事、採用試験についての説明会
公務員試験体験報告会	全学年	12月8日(水)	公務員試験合格者との懇談、質疑応答
公務員採用説明会	学部3年生	12月2日(木)・3日(金)・6日(月) 7日(火)・9日(木)・10日(金)	各種公務員の採用担当者による説明会
理工学部生・大学院生対象			
一般常識対策テスト	学部3年生・院1年生	10月27日(水)	国語・数学・英語・社会・時事等の一般常識テスト
SPI模擬テスト	学部3年生・院1年生	11月6日(土)・24日(水)	多くの企業が実施している代表的適性検査
先輩によるパネルトーク	学部1・2年生	11月17日(水)	就職に内定した先輩達によるパネルトーク
職業興味テスト	学部1・2年生	11月17日(水)・12月4日(土)	将来の進路を考える意識づけとして、1・2年生対象に実施
エントリーシート対策講座	学部3年生・院1年生	11月17日(水)	資料配布あり
第2回公務員試験ガイダンス	文系1・2年生 理系全学年	11月24日(水)	公務員の仕事、採用試験についての説明会
面接対策講座	学部3年生・院1年生	12月1日(水)	模擬面接実施
第2回就職ガイダンス、内定者報告会	学部3年生・院1年生	12月8日(水)	採用状況説明・就職に内定した先輩達による報告会
業界研究会	学部3年・院1年生	12月11日(土)・18日(土)	各業界の採用担当者を招き、学内で実施する企業説明会
全学部生対象			
先輩によるパネルトーク	全学年	11月17日(水)	実社会で活躍中の卒業生と4年生によるパネルトーク
職業・興味適性テスト	学部1・2年生	11月17日(水)・12月4日(土)	将来の進路を考える意識づけとして、1・2年生対象に実施
第2回公務員ガイダンス	文系1・2年生 理系全学年	11月24日(水)	公務員試験・職種等の説明と4年生の報告

※追加、変更等もありますので、詳細は必ず掲示板にて確認してください。

Club & Circle Information

問い合わせ先 〒150-8366
青山学院大学学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。
下記大会演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2004年10月~2005年1月)

- アイススケート部(ホッケー部門) ◎関東大学アイスホッケーリーグ戦(10~12月)
- 空手道部 ◎全日本大学空手道選手権大会(11月)
- 拳法部 ◎全日本大学選手権(12月)
- 硬式庭球部(女子) ◎関東大学対抗テニス選手権大会(11月)
- ソフトテニス部(女子) ◎関東学生インドア(11月)
- 卓球(男子・女子) ◎全日本学生選手権大会(11月)
- チアリーディング部 ◎全日本チアリーディング学生選手権大会(12月)
- 軟式野球部 ◎東日本大学軟式野球選手権大会(11月)
- 馬術部 ◎関東学生馬術選手権大会(12月)
- バスケットボール部(男子) ◎全日本大学選手権(11月)
- バドミントン部(男子・女子) ◎全日本総合バドミントン選手権大会(11月)
- バレーボール部(男子・女子) ◎全日本インカレ(12月)
- レスリング部 ◎全日本選手権(12月)
- 吹奏楽・パトントワリング部 ◎東京都大学吹奏楽連盟合同演奏会(12月)
- E.S.S. ◎チャールズ杯スピーチ大会(11月)
- オラトリオ・ソサエティ合唱団 ◎KAY合唱団第110回定期演奏会(12月)
- オーケストラ部 ◎第85回定期演奏会(11月)
- リズムマンドリン ◎定期演奏会(12月)
- ロイヤルサウンズジャズオーケストラ ◎第36回定期演奏会(12月)

主要活動報告(2004年7月)

- バレーボール部(女子) ◎東日本インカレ(7月) 優勝

News Index 2004.07~09

WEEKLY AOYAMAのタイトル紹介

2004年7月上旬~9月下旬までの主なタイトルを掲載しています。

04年7月

- University Applied Sciences (HTW) の教授2名が本学を訪問
- 日本女子サッカー代表監督上田栄治氏(本学OB)、アテネオリンピック出場激励会開催
- 第11回青山学院大学同窓祭のご案内
- 青山学院大学 WTO研究センター主催 公開セミナーのお知らせ
- オーストラリアのアカベラグループ「ISABELLA」が公演
- 理工学部橋本研究室Pokhareさんが「Young Scientist Paper Award」受賞



University Applied Sciences (HTW) の教授2名が本学を訪問



日本女子サッカー代表監督上田栄治氏(本学OB)、アテネオリンピック出場激励会開催

04年9月

- 経営学部 鈴木豊教授が「第18回青木賞・著書の部」受賞
- 青山学院創立130周年記念公開講演会「グローバル化と日本文化」のお知らせ

WEEKLY AOYAMAアドレス <http://www.aoyama.ac.jp/agnews/weekly.html>



堀内 正博
国際マネジメント研究科 教授

誌上公開講座 No.24

青山スタンダード

テーマ別科目: 社会理解関連科目

「感性ビジネス—ファッション業界のフロンティア—」

ファッション業界の第一人者たちが、学生にファッションの“今”を伝える「感性ビジネス」。開講以来、学生たちから大きな反響を得ているこの講義について、授業のコーディネーターを務める堀内正博国際マネジメント研究科教授に紹介していただきました。

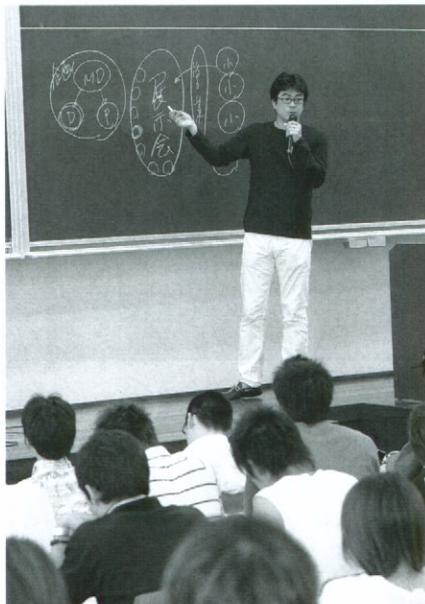
ファッション産業界の 全面的なバックアップを得て 希望の講座がスタート

新しい感性や価値観のあり方を打ち出し、多くの人々により豊かなライフスタイルを提案・提供する……いわゆる「感性ビジネス」といわれるものには、ファッション・ビジネスのほか、流通やアートビジネスなどがありますが、やはりファッションが学生にとってもっとも身近で、魅力的な存在ではないでしょうか。

今年度より財団法人・ファッション産業人材育成機構 (IFI) の全面的なご協力を得て、青山スタンダード科目として「感性ビジネス」を開講しました。

IFIは、次代を担う優秀な人材を育成することを目的として、わが国のファッション・ビジネス業界が、経済産業省のバックアップで設立した財団法人で、教育・研修事業をメインに、ファッションビジネス産業に関わる調査・研究なども行っています。

昨年まで、同団体のバックアップを得て本学国際政治経済学部で「生活産業マネジメント—ファッション産業—」という寄附講座が開講されており、学生から大好評で迎えられました。「感性ビジネス」は、いわばこの講義を全学部の学生が受講できるようにしたものといえるでしょう。



東浩之氏 (株) ユナイテッドアローズ 経営戦略グループ長



各分野の第一人者が毎週、講師として登場し ファッションの“今”を語る

ファッション・ビジネスは、狭義に捉えると素材産業、アパレル産業、流通産業、その他関連産業から構成され、さらに多くの感性産業や生活関連産業などを含める場合もあります。

そこで最初の2回の講義では、総論として感性ビジネスとしてのファッション産業の捉え方や日本のファッション産業のアウトラインについての理解を深める授業を行いました。3回目以降は、テキスト、デザイン、バイヤー、カラリスト、プレスなど、多様な分野から構成されるファッション産業界でそれぞれ第一人者として活躍中の方々が毎週講師として登場。“提案する・創る・売る・伝える”……それぞれのビジネスモデルや戦略、仕事の魅力などをビジネス現場からの生の声で講義していただきました。新しいライフスタイルを提案・創造するファッション・ビジネスの“今”を知り、理解を深めるためにこれほど充実した大学における教育プログラムは類を見ないと自負しています。

この講義はテーマ別科目「社会理解」の一環として行われており、ファッション業界への就職を希望している人はもちろん、マーケティングや企画開発部門など、あらゆるビジネス領域で活かすことができる生きた知識を得ることができます。そして受講した学生のみならず、自分の将来(就職)を考える際にも、大きなヒントを与えてくれることでしょう。

「感性ビジネス—ファッション産業のフロンティア—」

講義

- 4月13日 感性ビジネス—ファッション産業
長谷川功氏 (有)長谷川企画 代表取締役
- 4月20日 日本のファッション産業の概要
井上義次氏 IFIビジネス・スクール 部門長
- 4月27日 服地がかもしだす21世紀のカルチャー
永森達昌氏 オフィスナガモリ 代表取締役
- 5月11日 ライフスタイルとデザイン
岡崎義和氏 伊藤忠ファッション・システム(株)
ナレッジ・マネジメント室長
- 5月18日 ファッション・ビジネスにおける
“バリュー消費と新ビジネス・モデル”
水野紘之介氏 (有)ミズノブランドウ 代表取締役
- 5月25日 タウンウォッチに見るファッション変遷
田中昭氏 Lambs & Cottons 代表取締役
- 6月1日 Web人気サイト
「週間ファッション情報」の運営
井上和美氏 (有)ホームワークス 代表取締役社長
- 6月8日 ファッショントレンドとカラーの今
関野しおり氏 [io] color & planning office カラーリスト
- 6月15日 ジーンズの魅力
宮川大一郎氏 リーバイ・ストラウス ジャパン(株)
営業企画部部長
- 6月22日 代官山の街づくり
岩橋謙次氏 (株)アスピ 代表取締役
- 6月29日 ブランドとセレクトショップ運営への進め方
木下富江氏 T.Kプランニング 代表
- 7月6日 UAから見たファッション産業の現状
東浩之氏 (株) ユナイテッドアローズ 経営戦略グループ長

後期は「ライフスタイル」を
キーワードに開講する予定です。

オープンキャンパス開催報告

2004年度オープンキャンパスは、7月18日(日)相模原キャンパス、7月25日(日)および9月25日(土)に青山キャンパスにおいて開催されました。7月は相模原キャンパスにて4,595名、青山キャンパスにて8,711名、そして9月には3,319名の高校生とその保護者等が来場しました。総来場者数は過去最高の16,625名となり、本学の人気の高さがうかがえました。本年度は「就職説明会」や「学生生活・奨学金制度説明会」などの新しい企画を取り入れた「吹奏楽パトントワリング部」「応援団」「チアリーディング部」「ハ

ンペルクワイア」「アナウンス研究会」「English Speaking Society」などの学生団体をはじめ、各学部・学科の紹介や模擬授業、また、受付や案内誘導などをボランティアで手伝っていただいた学生など、たくさんの在学・教職員の協力を得て実施いたしました。

なお、7月31日(土)には、青山キャンパスにおいて、社会人を対象としたオープンキャンパスも開催、563名(昨年度470名)が来場しました。キャリアアップをめざす向学心の強いばかりで、充実した説明・懇談が実施できました。



学生ボランティアの皆さん(青山キャンパス)



大学紹介・入試概要紹介



学生ボランティアの皆さん(相模原キャンパス)



ウェスレー・チャペルでの学長講演

大学図書館情報システム&HPをリニューアル

2004年4月より、大学図書館の学術情報システムとホームページがリニューアルされ、「利用問い合わせ」が図書館ホームページ上でできるようになったほか、「新着図書・雑誌の案内」「蔵書確認」などの新サービスが始まりました。従来のシステムでできなかった中国漢字やハングル文字の表示が可能になり、また、携帯電話による「OPACでの目録検索」「利用問い合わせ」も可能となっています。



www.agulin.aoyama.ac.jp

高校1・2年生のための大学説明会

高校1・2年生の早期より、本学への進学を希望している高校生とその保護者を対象にした大学説明会を開催します。

日時:2004年11月7日(日)

10:00~16:00(予約不要、入退場自由)

場所:青山キャンパス

開催内容(予定):歓迎礼拝/パイプオルガンコンサート/保護者を対象とした大学ガイダンス/全学共通教育システム「青山スタ

ダード」概要紹介/大学紹介・入試概要紹介/大学紹介ビデオ上映/資料閲覧/資料配布(大学案内パンフレット等)/個別進学相談/リスニング試験体験/青山学院史資料展示/在学生による合格体験トークライブ&懇談会/在学生によるEnglish-speaking Live!/学生団体によるアトラクション等

※詳細な企画内容および時間は、大学ホームページをご覧ください。

<http://www.aoyama.ac.jp/admission/college/index.html>

歴代院長とその時代 Ⅳ



こさかがんじょう 古坂 嵩城

第10代院長
(1956~1959年在任)

1889(明治22)年、青山学院の母体のひとつである「耕教学舎」を創立したジュリアス・ソーバー博士より受洗。1911(明治44)年青山学院高等科を卒業し、1917(大正6)年に渡米。オハイオ・ウェスレアン大学卒業、シカゴ大学大学院を経て、1923(大正12)年コロンビア大学大学院修了。同年帰国し、母校である青山学院高等学部教授に就任。その後、高等学部部長、文学部・高等商業学部部長、女子専門学校校長、大学商学部部長、大学学長を歴任。1956(昭和31)年、豊田實院長の後を受け第10代院長に就任すると、「青山学

院十年計画」にもとづき、各部の施設充実を推し進めるとともに、1959(昭和34)年に大学法学部を新設。また同年には「青山学院創立85年記念式」が、校友、父母、教職員、学生・生徒、米国メソジスト教会等の来賓など1万数千名を集めて盛大に挙行され、戦後の青山学院が総合学園に発展する基盤を整えた院長として記憶されています。1971(昭和46)年から4年間、青山学院理事長を務め、1974(昭和49)年、本学から名誉経済博士号を授与されました。



1959(昭和34)年11月1日、東京都体育館において挙行された創立85年記念式

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々に送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開設。「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュー

ースを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けております。さらに「Weekly AOYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニュースレター」として学内のAGUニュース専用スタンドにて配布しています。なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々にお届けするため、住所が変更になった場合は、住所変更の手続きをお取りください。

事務取扱窓口

青山キャンパス→学生部厚生課
相模原キャンパス→チューデントセンター・学生生活グループ

AGUニュースのバックナンバーはこちらをご覧ください。

<http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>
広報入試センター広報課 ● 2004年10月20日発行 ●